



ライフアートコミュニティ佐保の里
通所介護・訪問介護・居宅介護支援
訪問看護



ディサービスセンター佐保の里

〒630-8105 奈良市佐保台2丁目902-241
電話：0742-70-5020

青山ディサービスセンター

〒630-8101 奈良市青山4丁目3番
電話：0742-23-1020

菅原ディサービスセンター

〒631-0842 奈良市菅原町298-1
電話：0742-53-2020

新大宮ディサービスセンター

〒630-8115 奈良市大宮町3丁目4-18
電話：0742-30-3560

ホームページ <http://www.lifeartcommunity.com>

佐保の里たより

介護事業の人材（人財）の育成について

我が国は、超高齢社会を迎え「人生90年時代」に向けて、新しい社会システムづくりに臨むことが必至となっています。そうした中で、切実な問題となっているのが介護を必要とする方々の急増に対処していく問題です。介護事業はサービス業という性格から考えれば、この需要の増加に対処できるだけの介護従事者の確保が急務であることは言うまでもありません。

現在では、「人材こそが最大の財産」と考えられ、介護事業の経営にとって重要視すべきなのは「人材」「サービス」「資金」の3つの要素であり、中でも重要性が高いのは「人材（人財）」です。

介護サービスでは、人材を育てその能力を最大限に引き出すことで、質の高いサービスが提供できるようになり、ご利用者の満足度向上が図れます。

「介護の基本は、コミュニケーションの能力です」

適切なサービスを提供していくには、介護を必要とされるご利用者やそのご家族とのコミュニケーションを通して、信頼関係を築いていかななくてはなりません。

そのため、介護の現場では、知識や技術だけでなく高いコミュニケーション力を持っていることが大切な要素となります。コミュニケーション力は「人間力」だと言えるでしょう。その基本は、自分の状態や相手の気持ちを出来るだけ正確に把握する能力です。コミュニケーション・スキルを上達させるためには、自身や相手を知り、人間を深く理解することが求められます。

厳しい状況やストレス状態においても、自分の感情を客観的に把握して、コントロールしていかななくてはなりません。介護現場の雰囲気や人間関係からも、コミュニケーション力は大きな影響を受けてきます。コミュニケーション力を向上させるには、現場のリーダーシップが重要な意味を持っています。

<コミュニケーションの5つのポイント>

- 1、相手の話をよく聞き、気持ちを理解することができる
- 2、自分の気持ちや考えを的確に伝えることができる
- 3、相手と同じ目線に立つことができる
- 4、指示するだけでなく、自発的な行動を引き出すことができる
- 5、誰に対しても公平にふるまうことができる

佐保の里各事業所では、「コミュニケーション力」「リーダーシップ力」を高め、ご利用者の満足度向上と適切なサービスが提供できるように、年間教育計画を策定し、「人が財産」を基本に研修方針に基づき計画的に職員研修を実施しています。

人材育成を成功させるには、「経営理念」に基づいた「求める人材」をはっきりさせ、明確な目的を持って進めることが重要であると考えます。

ご利用者様に「安全」で「安心」してご利用いただくために、「体の健康と癒し」「心の健康と癒し」をテーマに、人材（人財）の育成を重視し「質の高いサービス」の実現を目指してまいります。今後ともより一層のご支援・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。



ライフアートコミュニティ佐保の里

管理部長 藤永 栄一



レクリエーション



今年もよい年で
ありますように...



2018 月🎍月🎍月🎍月🎍月🎍月🎍月🎍月🎍月🎍



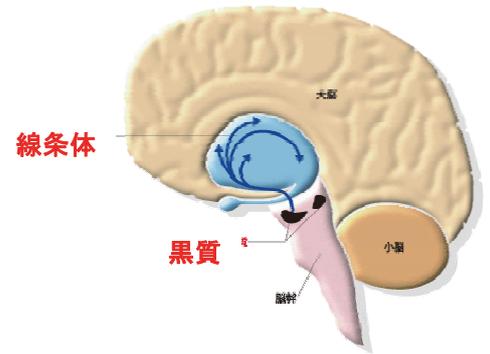
鬼は〜外!
福は〜内!



パーキンソン病 ~どう向き合っていくのか~

パーキンソン病は、手の震え・動作や歩行の困難など、運動障害が現れる進行性の神経変性疾患です。40歳以上の中老年の発症が多く、特に65歳以上の割合が高いです。40歳以上の中老年の発症が多く、特に65歳以上の割合が高いです。アルツハイマー病と並んで頻度の高い神経変性疾患で、日本では難病(特定疾患)に指定されています。

脳と脊髄の間にある脳幹部という場所にある黒質という部分の細胞が脱落し、変性してしまう病気です。そこから分泌されるドーパミンと呼ばれる神経伝達物質の量が低下してしまい発症します。



※パーキンソン病の特徴として最初片方の上肢に発症が見られ、その後発症した同じ側の下肢⇒反対の上肢⇒下肢と進むことが多いです。

その他の症状として、認知症、自律神経症状といった精神上的の障害が起こることもあります。

治療法



薬物療法

治療の中心は薬物治療です。パーキンソン病と診断された場合、まず薬物治療が開始されます。薬物治療により、患者さんの多くは症状がかなり改善します。薬は多くの種類がありますが、それぞれ長所と欠点があり、年齢や社会生活の仕方、病気の重さ、薬に対する反応などを考慮して、うまく組み合わせ、薬用量を決めることが大切です。

しかし、パーキンソン病が進行すると薬が効く時間が短くなり、次の薬を飲む前に効果が切れるウェアリング・オフ現象や、1日のうちで薬の効く時と効かない時がみられるようになります(オン・オフ現象)。



外科療法

外科治療は、このような長期の薬物治療で生じた問題点を緩和する目的で行われることがありますが、認知症がなく、L-ドーパがよく効く患者さんが対象になります。



理学療法

理学療法は、社会活動そのものがリハビリテーションですが、家庭でじっとしていることが多い患者さんは身体を動かさないことによる身体機能低下を防ぐ為、早期から適度な運動を始めることをお勧めします。



心のケア

パーキンソン病の告知は進行の早い病気等と違い、すぐに何かをしなければならないというわけではありません。長い時間をかけ、ゆっくりと少しずつ受け止めていく病気です。それまでの人生の送り方や暮らし方によって受け止め方も変わってくるでしょう。病気も生活の一部として、まず病気をよく知ることが大切です。よく知ることによって、不安が取り除かれ、余裕が生まれます。正しく病気のことを知っていく上で、他にも多くの人がこの病気にかかっており、自分だけでないことがわかります。病気の経過を知っておくことで、症状が少しずつ進行して行っても、慌てず対応することができます。

また、家族の方の理解も非常に大切です。家族が慌ててしまってもはいけません。病気の症状が軽いうちは、それほど介護は必要ありません。しかし日々の暮らしの中で身も心も疲れがたまってきてしまいます。お互いに我慢することなく、言いたいことを言い合い、したいことがあれば遠慮なく出来る状況を作っていくことが理想的ではないでしょうか。



ライフアートコミュニティ佐保の里

リハビリ室 室長 谷本 俊宏

理学療法士 上東 剛志

自慢のご利用者様

新大宮ディサービスセンター

奈良市在住

岡井 シヅ子様 98歳

大正8年11月27日 生まれ

98歳の年齢を感じさせないパワフルな岡井様、現在は週3回ご利用頂き、入浴、リハビリ、学習療法、他の利用者さんとのおしゃべりと忙しく過ごされています。



岡井様の思い出



岡井様は、5人兄弟の長女として奈良市水間でお生まれになりました。20歳の時にお母様(当時40歳)を亡くされ、長女ということもありご兄弟の面倒を見ながらお父様と一緒に畑や田んぼに出られたり、お茶畑でお茶摘みを手伝ったりして市内の洋裁学校に通われていました。

20代前半でご結婚をされ、大手繊維会社で番頭さんをされていたご主人が会社を辞められ自営で縫製のお仕事を一緒にされてこられました。洋服やパジャマ、バック等を作られていたそうですが、ナイロンバックがよく売れ大阪から買い付けに来られる方もいるぐらい人気商品だったようです。73歳の時に、ご主人を亡くされてからは縫製のお仕事も辞められ趣味の写真やガーデニングに熱心に取り組まれていました。



これまではお元気で過ごされていましたが、96歳の時に救急で大腸の手術をされ1か月入院された時は、ご両親の写真を肌身離さず持ち、もうだめかも・・・と弱気になられたこともあったようですが、主治医の先生が優しく、男前で「100歳のお祝いをしましょう。」との言葉を励みにして、入院生活も乗り越えられました。

その後も別施設でのリハビリ生活も頑張られ、自宅へ戻ることができた時は言いようのない嬉しさだったようです。在宅生活も息子様、お嫁様に「とても良くしてもらい、満足しています」とのことで手を合わせられていました。

お元気の秘訣

しっかりと食べて、くよくよせず、嫌なことがあっても、良い方へ良い方へと考えるようにして、愚痴は言わずに前向きであることを心掛けることだそうです。デイサービスを利用されるようになって色々な方とお話したり、体操やレクリエーションの参加することも刺激になるそうです。ご自身の関わる方すべてに「感謝」の気持ちでいっぱい！と合掌してくださいました。



← 岡井様の作品

新大宮ディサービスでは・・・

施設の雰囲気も良く、活気があり、ご飯もおいしく頂き、楽しいです。といつも笑顔で答えてくださいます。

現在は週3回の利用でお友達もたくさんおられ、得意の折り紙作品を作りプレゼントされたり、色塗りに集中されたり皆様から「岡井さんのように歳をとっていきたい」と目標にされています。岡井様より元気を頂いております。

これからも、益々お元気でいて下さい。 貴重なお時間をありがとうございました。

インタビュー担当:上垣・森井

掲 示 板

ISO内部監査による継続的改善

毎年、年2回実施される内部監査員による内部監査が2月20日から2月23日の日程でISO管理責任者、デイサービスセンター佐保の里、青山デイサービス、菅原デイサービス、新大宮デイサービス、居宅介護支援事業所を対象に実施されました。

内部監査はISO9001の規格要求事項に基づいて、当社がマニュアル、規程、手順を作成し、決められた手順通りのサービスや運営ができているかどうかを監査するもので、出来ていなければ不適合と指摘され、業務改善につなげていくための是正処置が求められます。

このように、内部監査やマネジメントレビューにより、継続的改善をしていくためにISOを活用しています。



青山デイでの内部監査の一コマ



熊野本宮大社参拝

和歌山県熊野本宮大社は熊野三山(熊野本宮大社(くまのほんぐうたいしゃ)、熊野速玉大社(くまのはやたまたいしゃ)、熊野那智大社(くまのなちたいしゃ)のひとつで、全国の熊野神社の総本山にあたる熊野三山の中でもとりわけ古式床しい雰囲気漂わせており、古では伊勢へ七度、熊野へ三度といわれるほど賑わっておりました。

熊野本宮大社は、全長1000kmを超える熊野古道の最終到達地であり、皇室から庶民まで、古来から多くの人々は、まさに命がけで、全国各地からはるばる参拝に訪れた、霊験あらたかな大社なのです。

例年理事長他幹部職員が揃って熊野本宮大社に参拝しており、今年もライフアートグループのご利用者様のご健康とご多幸、社内安全、社運隆昌を祈念致しました。

【熊野本宮大社】



【熊野古道】



センター長の交代

平成30年2月1日付けにて、青山デイサービスセンターの谷本センター長が菅原デイサービスセンターへ、菅原デイサービスセンターの酒井センター長が青山デイサービスへそれぞれ異動し、新天地での業務に付いております。

両センター長共に、今まで培ってきた経験を最大限発揮してご利用者の皆様に満足頂ける施設を目指しておりますので、今後ともご指導、ご鞭撻を宜しくお願い致します。

青山デイサービスセンター 新センター長 酒井 賢一(元菅原デイサービスセンター センター長)
菅原デイサービスセンター 新センター長 谷本 俊宏(元青山デイサービスセンター センター長) } 着任しました。